

1 幼馴染は僕の専属メイド！？〜片思いしてるあの子から甘やかしご奉仕される休日〜

2  
3 (■トラック 1)

4  
5 ■効果音:教室のドアを開ける音

6 ■効果音:教室に入る足音

7 ■効果音:教室のドアを閉める音

8 ■効果音:足音

9  
10 ▲位置:前【遠距離】

11  
12 ≪アイラ≫

13 はよーっ。ん？ 今日は何人？ 星七（せな）は？

14  
15 ■効果音:教室の椅子を引っ張って座る音

16 ■効果音:鞆をかける音

17 ■主人公:いつも一緒にわけていけないから、なんか用

18 ▲位置:前【中距離】

19  
20 ……なるほどね。まあ確かにいつも一緒にわけてあげねえもんなあ

21  
22 ■効果音:スマホをいじる音 3秒ほど

23  
24 それより、星七（せな）から聞いたよ。アンタの両親、出張で海外に行くんだって。

25  
26 ■主人公:なんで知ってんだよ

27  
28 星七から聞いた〜。とか聞かされた〜。なんか心配してたぞ。

29 幼馴染を心配させるなんて、星七の大親友であるアイラさんは見過ごせないってわけよ。

30  
31 ■主人公:数日くらいなんとかなる

32  
33 まあ、3日くらいなら、なんとかなるとは私も思うけどな。

34 星七は心配性なんだよ、たぶん。知らんけど。

35  
36 ■効果音:アイラがスマホをいじる音

37  
38 つか、今日の宿題やってきた？ 最後の問題がわからなくて、後で教えてくれない。  
39 ■主人公：自分でやれ  
40  
41 けちけちすんなよお。友達たろ〜。なんかお礼くらいするからさ〜。  
42  
43 ■効果音：主人公が鞆から教科書を取り出し机に入れる音  
44 ■効果音：ナギナがスマホを弄る音 3秒くらい  
45  
46 おっ、これ……。  
47  
48 なあなあ。  
49  
50 ■主人公：今度はなに。  
51  
52 これ、これ見ろよ。  
53  
54 ■効果音：主人公にスマホを見せる音  
55 ■主人公：なに？  
56  
57 メイドさん出張サービス『Lily Lull（リリーラル）』だってよ。  
58 なんかメイドさんが家に来て、家事とかやってくれるんだってさ。  
59  
60 ■主人公：なんか妖しいサイトだな。  
61  
62 これいいじゃん。出張中に頼めば、メイドさんがあれこれしてくれるんだって。  
63 アンタいつもバイトとかして、少しお金に余裕あるんでしょ？  
64  
65 ほら、見ろよここ、新人メイドさんお試しキャンペーンもやってんぜ。  
66 一日一万もかからんってさ。どう？ よくない？  
67  
68 ■主人公：べ、別に興味ないし。  
69  
70 興味ないフリしても無駄だから。アンタメイドさん好きなんですよ？  
71  
72 ■主人公：ぐっ、なぜ知ってる？

73  
74 何故もなにも、星七が言ってるから。  
75 ■主人公：俺にプライベートはないのか？  
76  
77 うん、アンタにプライベートもプライベートもない。星七がいる限りは、ご愁傷様です。  
78  
79 と、いうことで応募完了つと。  
80  
81 ■効果音：応募完了したっぽい効果音  
82  
83 明日の夕方に、一度新人メイドさんが挨拶しに来るって。  
84  
85 ■主人公：は？  
86  
87 名前はもう知ってるし、住所や電話番号は星七が教えてくれたからね！  
88 もつべきは何でも知ってる親友だな。  
89  
90 ■主人公：キャンセルだ！ キャンセル。  
91  
92 キャンセルって、別にいいけどさ、キャンセル料かかるけどいいのか？ 50%ほど。  
93  
94 ■主人公：んなつ！  
95  
96 まあいいじゃん、どうせ両親もいないんだし、規則正しい生活を送れると思えば。  
97  
98 ■効果音：学校のチャイム音  
99  
100 前向きに考えようぜ。ほら、チャイムもなったことだし、授業に集中しろよ。  
101 というわけでメイドさんの感想よろしくね。  
102  
103 ■効果音：アイラが後ろを向く音  
104 ■効果音：教室のドアが開く音  
105

106	(■トラック 2)
107	
108	■効果音:インターホンの音 (高級マンション)
109	■効果音:足音
110	■効果音:インターホンのボタンを押す音
111	■効果音:インターホンに越しに編集
112	▼位置:前【中距離】
113	
114	≫星七≪
115	あ、あのメイド出張サービス『Lily Lili (リリーラル)』です。
116	
117	■効果音:足音 (玄関に向かう)
118	■効果音:扉を開ける音
119	▼位置:前【遠距離】
120	
121	≫星七≪
122	こ、こんにちは。メイド出張サービス『Lily Lili (リリーラル)』から来ました。
123	木南 星七 (こなみ せな) ですう。あはは。
124	
125	■主人公:……。
126	
127	あ、えっと、大丈夫？ フリーズしちゃってる？
128	お、起きて、というか早く部屋入っていい？
129	
130	メイド服のままいるの、恥ずかしいよお。
131	
132	ああダメだ、フリーズしちゃってる。もお〜起きてよ〜。
133	
134	■編集さんへ:場面転換
135	■効果音:お茶を机の上に置く音
136	
137	あ、ありがとう。お茶を入れるのはメイドさんの仕事なのに、
138	君にやらせちゃったね。
139	
140	■効果音:主人公が椅子に座る音
141	■主人公:それで、なんでメイド？

142 ……えっと、メイドになった理由だっけ？

143 うーくん、深い意味はないんだけど、ちょっとやってみたかったっていうか  
144 興味があったというか。  
145

146 ほら、君もメイドさん好きだよな？ だからってわけでもないんだけど、  
147 えっとね、うーくん——こ、細かいことは言いつこなしだよお。

148  
149 ちょっと買いたいのがあって、

150 前から興味のあったメイドさんになってみたかっただけだから。

151 深い意味もなく、浅い動機だけ、だよ？

152  
153 ■主人公：その職場大丈夫なのか？  
154

155 ……へ、変な職場とかじゃないから、スタッフさん女性の方ばかりで、  
156 福利厚生もばっちり！ あっとほーむな職場だよ！

157  
158 ■主人公：逆にブラック臭が……。  
159

160 えっと……話を戻そ……？ 私はメイドさんで、君はえっと、こ、ご主人様だよな？

161 明日一日、頑張っってご奉仕させてもらうね。

162  
163 え、えへ。ご主人様って呼び方慣れないけど、お仕事中はちゃんとしなきゃだもんね。

164  
165 さっきも軽く説明したけど、まだフリーズが溶け切ってない状態だったからもう一度説明  
166 するね。

167  
168 Lily Lili（リリーラル）はメイドさん派遣サービスの会社で、

169 ご依頼をすると君だけの専属メイドさんがお家までやってきて、  
170 お料理とかお掃除とかの家事を代行してくれるサービスなの。

171  
172 君の申込み内容は、明日の朝から夜までのプランだね。

173  
174 どおっ、わかったっ。

175  
176 ■主人公：うん  
177

178

それにね、君のこと少し心配だったんだ。

179

だからこーしてメイドさんとしてだけど、様子を見て、ちょっと安心した。

180

君は昔から生活力だけはなかったから……。

181

あと、何か要望とかあったら、できる限りで聴くけど、何かあるかな？

182

■主人公：くるっと一回転して

183

▼演技指示：いぶかしむように

184

……ご主人様あ？一回転してほしって、どーいうことかな？

185

■主人公：他意はない！

186

……他意はないって……もう、まったくもうだよ！

187

まあご主人様が言うなら……。

188

■効果音：椅子から立ち上がる音

189

▼位置：前【遠距離】

190

えっと、くるって一回転すればいいんだよね？

191

一回だけだからね、もう。

192

■効果音：くるっと一回転する音

193

▼演技指示：一回転して少しつまづく

194

ぐんぐん……。

195

こ、これでいいかな？

196

あ、なんかすごくだらしない顔してる。

197

君は——ご主人様はホントにメイドさん大好きなんだね。

198

うう、なんか複雑だよお。

199

はい、おしまい！もうやらないからね！もう！まったくもうだよ！

200

214 ■効果音：靴を取る音

215  
216 よいしょっと。

217  
218 それじゃ、今日はこのくらいで、挨拶だけだったし。  
219 ……挨拶だけのはずだったはずなのに。

220  
221 こほん、また、明日の朝に来るから、あつ、忘れてた。合鍵だけちょうだい。  
222  
223 君が寝てる間に、朝こほん作ってあげる。

224  
225 ■主人公：無理してないか

226  
227 だ、大丈夫、これもメイドさんのお仕事だからね。無理してないよ？  
228 それに仕事ちゃんとしないとお給金もらえないし。うん。

229  
230 これは必要なぶろせすだから。

231  
232 ■効果音：合鍵を渡す音

233  
234 うん、ありがとう。え、えへ。合鍵げっと♪  
235 それじゃ、明日からよろしくね。ご主人様。

236  
237 あはは、恥ずかしいね。

238  
239 ばいばい、また明日。

240

241 (■トラック 3)

242

243 ■状況：主人公が寝ている

244 ■効果音：扉を静かに開ける音

245 ▼位置：前【遠距離】※編集さんへ、遠くで聴こえるように加工

246

247 ≪星七≫

248 失礼します。わぁこの部屋に入るのも久しぶりだぁ。

249

250 ■効果音：扉を静かに閉める音

251

252 ……なにも変わってないなぁ。もう高校生なのに小学生みたいな部屋。

253

254 ▼演技指示：匂いを嗅ぐ

255

256 すん、すん。

257

258 はぁ〜懐かしい匂い。昔を思い出す。あの頃は楽しかったなぁ。

259

っと、メイドさんのお仕事しないと。頑張れ私。

260

261 ■効果音：こっそり近づく足音

262 ▼位置：前【遠距離】

263

264 っ、っ主人様。朝だよ。起きて〜。

265

266 ………。

267

268 ……まったく起きない。なんて健やかな寝顔。ふふ、子供の頃と同じ寝顔してる。可愛い♪

269

高校生になって大人っぽくなったかと思えばこんな無防備な顔を晒しちゃって、

270

もう、まったくもうだよ。

271

272 っ主人様、起きて。もうご飯できてるよ。

273

274 ■効果音：揺さぶる音

275

276 起きて〜、いくら休みだからって寝すぎだよ〜。

277 ■効果音：主人公が起き上がる音  
278 ▼位置：前【中距離】  
279  
280 あっ、起きた。  
281  
282 おはよう、ご、ご主人様。  
283  
284 ……………。  
285  
286 ……またフリーズしてる。  
287 ご主人様、昔から困った時とか驚いた時、すぐに固まっちゃうんだから。  
288 その癖まだ治ってなかったんだ。  
289  
290 うーん、再起動に時間かかるかな？ ご飯冷めちゃうなあ。  
291  
292 ■効果音：主人公を揺らす音  
293  
294 ご主人様、ごしゅじんさまあ〜。  
295  
296 ダメだ、ピクリもしない。  
297  
298 あ〜、これは悪戯し放題かな？ 私の好奇心がうずうずしちゃう。  
299 うーん、ダメダメダメ今日の私はメイドさん。  
300 メイドさんは悪戯しない、徒（いたずら）に悪戯はしないはず、たぶんきつとおそろく。  
301  
302 次の機会に取っておこう。  
303  
304 ■効果音：主人公を揺らす音  
305  
306 ごしゅじんさまあ〜朝ごはんの時間だよお〜。  
307  
308 ロボットみたいに動かないじゃん。  
309  
310 もう、困ったご主人様だなあ。うーん、……まあいつか、  
311 温め直してできるものは、また温めればいいし。  
312

313 ふう、ご主人様、再起動したらお着替えして、リビングに来るんだよ。  
314 待ってるからね。  
315

316 ■効果音:足音(離れる音)

317 ■効果音:扉の開閉音

318 ■編集さんへ:場面転換

319 ■効果音:食事音フェードイン

320 ■効果音:橋をお茶碗に置く音

321 ■主人公:ごちそうさまでした。

322 ▼位置:前【中距離】

323

324 はい、お粗末様だよ。ふふ、いい食べっぷりだったね。  
325 美味しかったかな？  
326

327 ■主人公:うん

328

329 よかったあ。

330 あのね、おばさんから、ご主人様の好物をたくさん聞いたんだ。  
331 忙しいはずなのに、すぐに返信してくれたんだよ。いいお母さんだね。  
332

333 でも、ご主人様の好物、昔からあまり変わってなくて驚いた。  
334 私も知ってるものばかりで、なんだかおかしかったよお。ふふ。  
335

336 ■主人公:悪かったね

337

338 ……ふふ、そーいじけた顔しないの。

339

340 あっ、それとさっき台所見たけど、ご両親が出張中、  
341 コンビニのお弁当ばかり食べてたでしょ？  
342

343 たまにならいいと思うけど、毎日はあまり体によくないからね。  
344 ちゃんとしたご飯食べないと、体調崩しちゃうよ？  
345

346 できたら正しいからちゃんと栄養のあるご飯食べよ？

347 そ、その、もしアレだったら、また私が作りにきても、いいんだよ？

348

349 幼馴染なんだから、もっと頼ってくれたらいいよ？  
350

351 ■主人公:そ、そうだな。  
352

353 あっ、うん。今日はお仕事だけど、ご主人様の為なら、いつでもはせ参じちゃうよ！  
354 えへ、えへ。  
355

356 ■効果音:そのご主人様って呼び方照れる  
357

358 ……ん？なあに？呼び方？  
359

360 うーん、私もご主人様呼びは照れるけど、私今、メイドさんだし。  
お仕事だからちゃんと呼び方も変えないと。  
361

362 ご主人様も早く慣れてくれると嬉しいなあ。  
363 呼ぶたびに顔真っ赤にされちゃうと、私も恥ずかしいよお。  
364

365 ■主人公:努力する  
366

367 うん、頑張って。  
368

369 それでご主人様は、このあとどうするの？何か予定あるの？  
370

371 ■効果音:星七こそなにするんだ？  
372

373 ……私？私は、たまっている洗濯とか、お部屋の掃除とかしようになって。  
374 おばさんたちいないから、お部屋凄いいことになってるよ。  
375

376 ■主人公:目を逸らす  
377

378 あゝ目を逸らした！ダメだよちゃんとしないと！  
379 ご主人様は昔からそこらへんダメダメなんだから。  
380

381 私が来なかったらおばさん卒倒しちゃうよ。  
382 これを機に少しは家事を覚えようね。  
383

384 ■主人公:困ったら星七に言う

385 もおろ頼ってくれるのは嬉しいけど、甘えすぎるのはダメなんだからね。  
386 いつまでも私がいるわけじゃないから。いつかはご主人様も一人立ちするんだよ？  
387 その時に私が一緒にいるかはわからないでしょ？  
388  
389 もしいてほしいなら……ううん、な、なんでもない！  
390  
391 お皿、下げちゃうね。  
392  
393 ■効果音：星七が椅子から立ち上がる音  
394 ■効果音：お皿を重ねる音  
395 ■効果音：お皿を持って離れる音  
396 ■効果音：お皿を洗う音（遠くで）  
397 ■主人公：部屋で休んでる  
398 ▼位置：前【遠距離】  
399  
400 ……うん？ わかった、お昼頃になったらまた声かけるね。  
401  
402 ▼演技指示：独り言  
403  
404 危ない危ない、うっかり口を滑らしちゃうところだったよお。  
405

406	( ■トラック 4 )
407	
408	■ 効果音:掃除機をかけてる音
409	■ 効果音:主人公の足音
410	■ 主人公:星七?
411	■ 効果音:掃除機の音停止
412	▼ 位置:前【遠距離】
413	
414	《 星七 》
415	？ 主人公、呼んだ?
416	
417	■ 主人公:そろそろ休憩したらどうだ?
418	
419	あつ、もうこんな時間……。
420	朝からいろいろしてたら楽しくなって忘れちゃった。
421	
422	そうだね、ご主人様の言う通り、休憩しよっかな。
423	ご主人様も一緒する?
424	
425	■ 主人公:そうする
426	
427	うん、それじゃで紅茶でもしばいちゃう?
428	
429	■ 主人公:うん
430	
431	いつも私が飲んでる紅茶をお家から持ってきたんだ。
432	すっごく美味しいから期待してて。
433	
434	先に座って待ってて、私がおもてなししてあげる。
435	これもメイドさんのお仕事。やる気出てきた。ふふ。
436	
437	■ 効果音:足音 (主人公)
438	■ 効果音:リビングの椅子に座る音
439	■ 効果音:星七が掃除機をしまいに行く音
440	■ 効果音:星七が戻ってくる音
441	

442	▼位置：前【遠距離】編集さんへ：遠くで聴こえるように調整をお願いします。
443	
444	よし、早速やっちゃお。お湯は沸かしておいたから……。
445	
446	■効果音：星七が遠くで紅茶の準備をする音（丁寧にお願いします）
447	
448	ご主人様。カップとかはご主人様のもの使っいいいよね？
449	
450	■主人公：いいよ
451	
452	ありがとう。
453	
454	■効果音：星七が遠くで紅茶の準備をする音
455	
456	出来た。
457	
458	■効果音：おぼんを持ち上げる音
459	
460	んしょごと
461	
462	■効果音：足音（ティーポットとカップをお盆に載せてる・カチャカチャ音）
463	▼位置：右耳側【遠距離】
464	
465	お待ちせ〜。
466	
467	■効果音：お盆をテーブルに置く音
468	■効果音：台詞に合わせて、テーブルにティーカップとカップを置く音
469	▼位置：前【中距離】
470	
471	いつも私が飲んでるおすすめのお茶だよ。リラックス効果があるから、
472	これを飲みながら勉強すると捗るんだ。
473	
474	あつ、ホットでよかったかな？アイスでも作れるけど、どうする？
475	
476	■効果音：ホットでいいよ
477	

478 ……うん、ありがとう、気を遣わせちゃったかな？

479

480 ■主人公：そんなことないよ

481

482 そっか、えへへ。優しいね。

483

484 それじゃ、入れてくね。

485

486 ■効果音：紅茶をカップに淹れる音

487

■効果音：カップを主人公の前に差し出す音

488

489 はい、ご主人様の分。

490

491 私の分も——。

492

493 ■効果音：紅茶をカップに淹れる音

494

495 ん、これでよし。

496

497 あっ、お茶請けも必要だよね。うん、お茶請けはますとだね！

498 ちよっと持ってくるから、ご主人様は先に飲んでて。

499

■効果音：足音（星七）

500

■効果音：遠くでがそこそこの音

501

■効果音：主人公が紅茶を飲む音

502

■効果音：足音（星七）

503

▼位置：右耳側【中距離】

504

505 持ってきたよ。あっ、早速飲んでくれてるね。

506

507 ■効果音：パウンドケーキに入った箱をテーブルに置く音

508

■効果音：星七が座る音

509

▼演技指示：椅子に座る

510

▼位置：前【中距離】

511

512 ん、えへへ。

513

514 ■効果音:少し前のめりになる音(テーブルにお腹が当たるような感じです)  
515  
516 どうかな? どうかな? 美味しい?  
517  
518 ■主人公:大人の味だ  
519  
520 えへへ、お砂糖入れてないでしょ?そのまま飲むとそりゃ大人の味だよお。  
521  
522 入れてあげるね。  
523  
524 ■効果音:砂糖の入ってるカップの蓋を取る音  
525 ■効果音:砂糖をピンセットのようなもので詰まんで、紅茶に入れる音  
526  
527 はい、これでよくかき混ぜて。  
528  
529 ■効果音:主人公がスプーンで紅茶をかき混ぜる音  
530  
531 飲んでみて、さつきより甘味が広がって落ち着く味がすると思うから。  
532  
533 ■効果音:主人公が紅茶を飲む音  
534  
535 ぐんぐん。  
536  
537 ■主人公:さつきより美味しいけど、まだ少し苦いかな  
538 ■効果音:箱を開ける音  
539 ■効果音:パウンドケーキの包装紙を取る音  
540  
541 うんうん、砂糖一個だけじゃまだちょっと苦いよね。  
542 っごでお役に立つのが、こちら「パウンドケーキ」になります。  
543  
544 ■効果音:パウンドケーキを手を持つ音  
545  
546 はい、ご主人様、お口開けて。食べさせてあげる。  
547  
548 ■主人公:え、あ?  
549

550 いいから、いいから♪

551

552 ■効果音:もつと前のめりになる音(椅子を引きずる音とか、衣擦れ音で表現)

553 ▼位置:現在の位置から前【近距離】に移動しながら

554

555 はい、あ〜〜〜ん。

556

557 ■効果音:主人公がパウンドケーキを食べる音(衣擦れ音とか?)

558

559 って、えへ、えへへ。ちよつと調子にのっちゃったかな?

560 あ〜ん、久しぶりにしちゃったね、えへへ。

561

562 ▼位置:現在の位置から前【中距離】に移動しながら

563

564 よいしょつと。

565

566 それで、お味はどうかな?

567

568 ■主人公:わからない——。

569

570 え? あつ、ご主人様? ごしゅじんさまあ〜。

571

572 あ、またフリーズしちゃった。

573

574 あ〜んが恥ずかしかったのかな?もう、せつかく淹れた紅茶が冷めちゃうよ。

575

576 仕方のないご主人様だね、もう。

577

578 って言う私も、お顔がものすごく熱い気がする。紅茶より熱いんじゃないかなこれ?

579

580 ■効果音:カップを手に取り、紅茶を飲む音

581

582 ▼演技指示:紅茶を飲む

583

584 ずずずひ……。

585

ふう〜。リラックスするなあ。紅茶、なんて便利。

586 ▼演技指示：紅茶を飲む

587

588 ずずずひ……。

589

590 はあ、ご主人様、相変わらずフリーズしたまま。

591

592 でもこんなにじっくりお顔をみることもなんて最近なかったから、  
593 これはこれで乙なのかな？ くへく。

594

595 ▼演技指示：紅茶を飲む

596

597 ずずずっ、んくんく。

598

599 冷静に考えるとなんなんだろうね、この状況。

600

601 幼馴染のお家で、メイド服を着て紅茶を飲んで、家主は固まって動かない。  
602 くんてこ過ぎるよ。

603

604 まあ、これも私たちらしいのかな？ ……らしいのかなあ？

605

606 こーもってロマンチックならしさがほしかったけど、  
贅沢は言ってられないね。

607

608 はあ〜。少し休憩したら、またお仕事がんばろ〜。

609 (■トラック 5)  
610  
611 ■効果音: 漫画のページをめくる音  
612 ■効果音: 遠くでノックする音  
613 ▼位置: 後ろ【遠距離】※ドア越しに編集をお願いします。  
614  
615 ご主人様、お掃除しにきたよ。  
616  
617 ■効果音: 慌てて漫画を置く音  
618  
619 入るよ。  
620  
621 ■効果音: 扉が開く音  
622 ■効果音: 主人公が振り向く音  
623 ▼位置: 前【遠距離】  
624  
625 お邪魔します。  
626  
627 ■主人公: どうした?  
628  
629 ……ん? どうしたものなにも、お掃除しに来たんだよ。  
630 あとはご主人様のお部屋のお掃除をすればみっしょんぷりーとだからね。  
631  
632 ■主人公: 俺の部屋はいいから  
633  
634 ……ダメだよ、ちゃんと掃除しないと。ご主人様、あまり掃除好きじゃないでしょ?  
635 こーいいう機会でもないし、お部屋綺麗にならないんだから。  
636  
637 それに昔は、一緒に片付けとかしてたし、普通のことだよふつーのこと。  
638  
639 ■主人公: それはそうだけど  
640  
641 ……とところでご主人様は何をしてたのかな?  
642  
643 ■効果音: 主人公に近づく足音  
644

645 ■効果音：主人公が振り向いて、漫画を隠す音  
646 ▼位置：後ろ【中距離】  
647  
648 ……ご主人様？今、何か隠したよね。  
649  
650 ■主人公：べ、別に  
651  
652 ……隠したよね？  
653  
654 ■効果音：足音  
655 ■主人公：……  
656 ▼位置：後ろ【近距離】  
657  
658 何を隠したのかな？私に見せれないもののかな？  
659  
660 見して。  
661  
662 ■主人公：そ、それは  
663 ▼演技指示：次の台詞首を左右に振りながら  
664  
665 いっいから、みっしって。  
666  
667 ■主人公：ダメだって  
668 ▼演技指示：主人公が手で隠してる漫画を取ろうとしてる感じです  
669 ▼位置：後ろ【近距離】左耳側より  
670  
671 なんて隠すの。メイドさんに隠し事はえぬじーだよ。  
672  
673 ■主人公：なんださ  
674  
675 ……んっんっん。取れた！  
676  
677 ■効果音：主人公が振り向く音  
678 ■主人公：あっ！  
679 ▼位置：前【中距離】  
680

681 どれどれ〜ご主人様は何を見てたのかな？

682

683 ■効果音:漫画をめくる音

684

685 ……ん？ 普通の漫画だね、おかしなところは、なにも――。

686

687 ■効果音:漫画をめくる音ストップ

688

689 ……。ねえ、ご主人様？ どうしてこの漫画の女の子はみんなメイド服を着てるのかな？

690

691 ■主人公:なんでだろうね。

692

693 小さい子から、大人っぽい女の子まで、なんで全員メイド服着てるのかな？

694

695 ■主人公:不思議だね

696

697 ……やっぱり、ご主人様はメイドさん大好きなんだね。

698

699 うう、そんな子に育てた覚えはないよ。もう、まったくもう。

700

■主人公:これは違って

701

702 ……なにが違うのかな？ 言い訳は聞きたくないよ。

703

いいもん、ご主人のメイドさん好きは今に始まったことじゃないしね。

704

705 うう、少し疎遠になってる間に、ご主人様がメイド狂いになっちゃった。

706

おばさんに報告とかした方がいいのかな？

707

708 ■主人公:それはやめてくれ

709

710 ……でも、実の息子が登場人物全員メイドさんの漫画を、

711

ぐふふって言いながら読んでるなんて、あまり普通のことじゃないでしょ？

712

713 ■主人公:ぐふふは言っていない

714

715 ……あれ？ ぐふふって言ってなかったっけ？ ぐふふってなかった？

716

717 それなら、まあ、おばさんに言うのはやめてあげようかな。  
718  
719 でもね、ご主人様。今日のメイドさんは私なんだよ？  
720 いくら漫画だからってほかのメイドさんを見てほしくない。  
721  
722 漫画のメイドさんにうつつを抜かすなんて、ご主人様失格だよ。もう。  
723  
724 ■主人公：ごめん  
725  
726 ……謝っても遅いんだから。  
727  
728 ■主人公：どうすれば許してくれる  
729  
730 ホントに許してほしいの？  
731  
732 ■主人公：うん  
733  
734 じゃあ、一個私の言うこと聞いてくれる？  
735  
736 ■主人公：もちろん  
737  
738 それなら……。  
739  
740 ■編集さんへ：場面転換  
741  
742 え、え、え。それじゃお言葉に甘えて……。  
743  
744 ■効果音：ヒロインが主人公の膝に頭を乗せる音  
745 ▼位置：前【近距離】  
746 ……ふう……膝枕してもらっちゃった。  
747  
748  
749 ■主人公：膝枕でよかったの？  
750  
751 ……うん、してほしかったから大丈夫。これでさっきの件はゆるしてあげる。  
752

753 今日だけは他のメイドさんを見ちゃダメだからね。もう。

754

755 ■主人公：わかった

756

757 約束だよ？

758

759 ■主人公：うん

760

761 (吐息・10秒)

762

763 ■主人公：メイドさんなのにこんなことしていいの？

764

765 ……ん？ お昼休みだから平気。メイドさんだって休みがなきゃ働けないんだよ。

766

ブラックはんたうい。

767

768 (吐息・10秒)

769

770 ■主人公：少し疲れた？

771

772 ……ん？ ううん、疲れてるのかな？ どうなんだろう

773

今日ここに来る前まで少し緊張してたから、でも今そうでもないかも？

774

775 だんだんとリラックス出来てる気がする。懐かしい匂いに包まれてるからかもね。

776

777 (吐息・10秒)

778

779 ……あとはご主人様の部屋をお掃除して、洗濯物を畳んで、夕ご飯を作れば、

780

私の——メイドさんとしての仕事は終わるね。

781

782 もう少し頑張らないとだから、そのために今は休憩。

783

784 (吐息・10秒)

785

786 ……ねえ、ご主人様。よかったら頭を撫でてくれないかな？

787

788 ■主人公：え？

789 ……昔してくれたみたいに、ね。ダメ、かな？

790

791 ■主人公：いいよ

792 ■効果音：主人公がヒロインの頭を撫でる音

793

794 ……え〜。ありがとう。

795

796 (吐息・10秒)

797

798 はぁ……やすまる。肩の力が抜けていくようたく。

799 天国はここにあったんだね。

800

801 ■主人公：大げさだな

802

803 ……大げさじゃないよ。子供の頃、君の膝の上が一番落ち着く場所だったんだから。  
804 オプションに頭なでなでもついてくる、至福を肥やしてるなく。

805

806 ……あれ、使い方違う気がするね。〜。

807

808 (吐息・10秒)

809

810 ねえ、ご主人様。十分、十分だけ、ちょっとお昼寝してもいいかな？

811

812 起きたらまたメイドさんになってご奉仕してあげるから、ね。

813

814 い〜い？

815

816 ■主人公：いいよ

817

818 ……ありがとう。

819

820 (吐息・10秒)

821

822 それじゃ、おやすみ、なさい。ご主人様。

823

824 (寝息・10秒×3パターンください)

825 (■トラック 6)

826

827

■環境音: ※悩み中 ※編集さん、いいアイデアがあったらください。

828

■効果音: 荷物を床に置く音

829

▼位置: 前【中距離】

830

《星七》

831

ふう、一通り終わったかな。お部屋もピカピカになったね。

832

ご主人様も手伝ってくれてありがとう。

833

834

■主人公: どういたしまして

835

836

ご主人様のお家、お掃除ロボットや、ドラム式洗濯機があるんだね。

837

うちにはないから、ちよつと羨ましかったよ。すごく便利なんだ。

838

おかげでさくさくお掃除が進んだ。

839

840

■主人公: 人の手じゃないとダメなところもあるけどね

841

842

……そうだね。お掃除ロボットだけじゃ掃除しきれないところもあった。

843

そこらへん、私、頑張りました。特に君の部屋とかね。ふふ。

844

845

■主人公: ありがとう

846

847

どういたしましてだよ。

848

849

でも洗濯機にはびっくりしたよ。乾燥機もついてるから、ボタンをびっぴって押したら、乾燥まで全部やってくれるんだね。

850

今度バイトしてお金貯めて、うちにも導入してもらおうかな？

851

■主人公: メイドの仕事で？

852

▼演技指示: ちよつと焦りながら

853

854

あつ、えつと、そうかも？ うん。メイドさんのお仕事で稼ごうかなあ、あはは。

855

856

■主人公: 欲しいものは洗濯機ってこと

857

858

859

860

861 ……洗濯機もほしいけど、ちゃんと別に欲しいモノがあるんだ。  
862 ご主人様には秘密だよ。  
863

864 そ、そんなことより、もうすっかり日も暮れちゃったね！  
865 なんだかいつもより時間が早く感じる。  
866

867 メイドさんのお仕事はあとお夕飯を作って終わりなんだけど……、  
868  
869 ……………。

870  
871 え、えっとね。一応、実はまだちょっとメイドさんのサービスがあつて、  
872 その、お背中お流しサービスっていうのもあるんだけど……。

873  
874 その名の通り、お風呂でご主人様のお背中を流すサービスなんだけど……。

875  
876 ■主人公：それは、流石に。  
877

878 あつ、でもこれはメイドさんによるから、誰でも受けられるわけじゃないの。  
879 ちゃんとメイドさんと信頼関係を持ったご主人様限定のサービスだから、  
880 勘違いしちゃダメ、だよ？

881  
882 幼馴染の君なら、いいかなって思ったから言ったんだ。  
883 それで、どうする？ したい？

884  
885 あつ、またフリーズしてる。ご主人様、再起動して！  
886

887 ■効果音：主人公の肩を揺らす音  
888

889 あつ、戻った。早い。今日何回もフリーズしてるから流石になれたのかな？  
890

891 それで、どうしよっか？ あはは。  
892 する？ しない？

893  
894 ■主人公：首肯する  
895

896

897 ……あつ、う、うん。わかった、これもお仕事だからね。うん。  
898 ちよっと恥ずかしいけど、私頑張るよ！  
899

900 それじゃ、ご主人様、水着に着替えて先にお風呂に行つてて、  
901 私も準備できたら向かうから。  
902

903 ▼演技指示：独り言

904

905 頑張れ私、ここが正念場だぞ。

906

907 ■編集さんへ：場面転換

908 ■効果音：シャワーが流れる音（流しっぱ）

909 ■編集さんへ：扉越しに加工

910 ▼位置：前【遠距離】

911

912 ≪星七≫

913 入っても大丈夫？

914

915 ■主人公：いいよ

916

917 あ、うん、それじゃ入るねえ。

918

919 ■効果音：風呂場の扉を開閉音

920

921 え、えっと、あまりじろじろ見ないでくれると、助かるかな？

922 いくら水着を着てるからって、恥ずかしいものは恥ずかしいから、あはは。

923

924 なんだか変だね。昔は一緒にお風呂とか入ってたのに、えへ。

925

926 あつ、メイド服の時みたいに一回転とかしないから、

927 そーいうのはダメだから、ね？ わかった？

928

929 ■主人公：う、うん。

930

931 ご主人様は前向いてて、じゃないと緊張して動けなくなっちゃう。

932

933 ■効果音：足音（星七）  
934 ▼位置：後ろ【中距離】  
935  
936 ■主人公：水着、可愛いな。  
937  
938 ふえ、えつと、えとえと、ありがと？  
939 ふふ、まさかご主人様が水着を褒めてくれるなんて、恥ずかしいけど、  
940 凄く嬉しいかも？ えへ。  
941  
942 ▼演技指示：独り言  
943  
944 頑張って可愛い水着買ったといってたよ。  
945  
946 ■主人公：何かいったか？  
947  
948 え？ ううん、なにも言っていないよ。うん、沈黙してた！  
949  
950 それより、前はもう洗ったんだよね……？  
951  
952 ■主人公：うん  
953  
954 それじゃ、お背中とついでに髪の毛洗ってあげる、ね。  
955  
956 ■主人公：シャンプーとか持ってきたんだ  
957  
958 ……あ、うん。いつも私が使ってるシャンプーとか持ってきたけど、嫌だったかな？  
959  
960 ■主人公：そんなことないよ  
961  
962 ……そう？ ならよかった。  
963  
964 誰かの背中を流すのなんて初めてだから、痛かったら言ってるね。  
965  
966 ■効果音：ボディソープをスポンジにかける音（ボトル系）  
967 ■効果音：スポンジでわしゃわしゃする音  
968

969 ちゃんと泡立たせて。わしゃわしゃ、わしゃわしゃ。  
970 うん、このくらいで大丈夫そう。やっていくね。  
971

972 ■効果音: スポンジで背中を洗う音

973 ▼演技指示: 以降背中を洗うシーンの台詞では動いていることを意識しながら。

974  
975 (吐息・5秒)

976  
977 どう、なんか変じゃないない？ 痛かったり、痒かったりしない？  
978

979 ■主人公: 気持ちいいよ

980  
981 あっ、気持ちいいならよかった。えへへ。

982  
983 ■効果音: 少しの間 背中を洗う音

984  
985 (吐息・10秒)

986  
987 ……ご主人様の背中、大きくなったね。

988 小さい頃は私と一緒にくらいだったのに……。

989 小学生の高学年になって、中学生になって、今は高校生。

990  
991 すっかり身長も追い抜かされちゃって、可愛げがなくなって、  
992 その代わりにちよっとカッコよくなつて……ふふ、変なの。  
993

994 ■効果音: しばらくの間 背中を洗う音

995  
996 (背中を洗う吐息・10秒×2パターンください)

997  
998 はい、このくらいにしとっこか？

999 これ以上やると背中の皮がペリペリしちゃうかもだね。ふふ。

1000  
1001 一応聞くけど、洗い残しとか、もっとやってほしいところある？

1002  
1003 ■主人公: 大丈夫

1004

1005 うん、それじゃ流すね。  
1006  
1007 シャワー取ってくれる？  
1008  
1009 ■効果音：シャワーを渡す音  
1010 ■効果音：シャワーの聴こえ方に変化をください。  
1011  
1012 ありがとう。  
1013  
1014 かけるよ。  
1015  
1016 ■効果音：背中をシャワーで流す音  
1017  
1018 熱くないかな？  
1019  
1020 ■主人公：大丈夫だよ  
1021  
1022 はい。  
1023  
1024 ■効果音：しばらくシャワーの音  
1025  
1026 よし、終わり。  
1027  
1028 背中凄く綺麗になったよ。っていつでもご主人様からじゃ見れないね。ふふ  
1029  
1030 次はシャンプーだね。美容師さんに負けないくらいわしゃわしゃしてあげる♪  
1031  
1032 ■主人公：よろしく  
1033  
1034 そしたら少し温度下げてもらってもいい？  
1035 そうだね、だいたい39℃くらいに——。  
1036  
1037 ■効果音：蛇口をひねる音  
1038 ■効果音：手でシャワーの温度を確かめる  
1039  
1040 うん、このくらいだね。

1041 頭、流しちゃうから目、ぎゅってして。

1042

1043 ■効果音:シャワーで頭を流す音 15秒ほど

1044

1045 はい、もう目を開けていいよ。

1046

1047 それじゃ本格的にやっついていこうか、まずは予洗いから。

1048

1049 ■効果音:予洗いって？

1050

1051 ……うん？ あっそか、男の子はあまりしないんだっけ？

1052

1053 シャンプーする前に軽く髪の毛を洗うことを予洗いって言うんだけど。

1054

うん、実際にやりながら説明してあげる。

1055

1056 また目をぎゅってして。シャワーかけるね。

1057

1058 ■効果音:シャワーを頭にかける音

1059

1060 こーしてシャワーを髪の毛にあてながら……、

1061

頭皮をマッサージするみたいに……指のお腹でぐにぐにしていくの。

1062

1063 こうするとことで、汚れが7割くらい落とせるんだって。

1064

ちゃんと髪の毛を洗うには、予洗いした方がいいの。

1065

1066 ■主人公:星七は毎日やってるの

1067

1068 ……うん？ そうだね、私は毎日してるよ？

1069

1070 本当はお風呂前にブラッシングをするともっといいんだけど、

1071

今日はあわあわしてたから忘れちゃった。えへへ。

1072

1073 ■効果音:少しの間、シャワーと頭皮のマッサージ音

1074

1075 頭皮にお湯をかけることを意識しながらやるのが、ポイントなんだって。

1076

1076 ふふ、片手でやるの少し難しい。いつも自分にしかやらないから新鮮な気分。

1077	■効果音:少しの間、シャワーと頭皮のマッサージ音
1078	
1079	はい、おしまい。マッサージっぽいから少し気持ちよかったんじゃない？
1080	
1081	■主人公:眠くなってきた
1082	
1083	……へへ、いくら気持ちよかったからって眠るのはダメだよ？
1084	あとフリーズするのも厳禁。頭とか打ったら大変だからね。
1085	
1086	……。
1087	
1088	予洗いが終わって、ここからちゃんとシャンプーをしていくんだ。
1089	
1090	■主人公:女の子は大変なんだな
1091	
1092	……あはは、そうだよ、女の子は大変なんだよ？
1093	可愛くなりたいって口でいうのは簡単だけど、
1094	可愛いって毎日の積み重ねの結果だったりするからね。
1095	
1096	特に好きな人がいる女の子はもっと大変なんだから。よく覚えておくように。
1097	
1098	さ、身体も冷えちゃうから続きやろっか？
1099	
1100	■効果音:シャンプーのボトルをプッシュする音
1101	
1102	ご主人様の場合はワンプッシュで大丈夫そうだね。
1103	
1104	■効果音:手の中でシャンプーを揉み揉みする音（少し長め）
1105	
1106	シャンプーを直接髪の毛に付けるとよくないから、
1107	こーして手の中で泡立てることを意識するの。
1108	
1109	さっきのボディソープと一緒に、あわあわせることが重要なんだ。
1110	
1111	ご主人様も今度からやってみて。
1112	

1113 ■主人公：気が向いたらね

1114

1115 ……うん。最初は大変かもだけど、慣れちゃえばどうってことはない、はず。

1116 疲れたときとか、眠い時以外は、ね。あはは。

1117

1118 これでよし、そしたら髪の毛洗っていくね。

1119

1120 頭皮にシャンプーを付けずに、なるべく髪の毛に付けるように……。

1121

1122 ■効果音：シャンプーを髪の毛につける音

1123

1124 まずは泡立たせて。

1125

1126 ■効果音：シャンプーを泡立たせる音

1127

1128 そしたら、予洗いの時と同じように、指のお腹でマッサージするように

1129

1130 ■効果音：シャンプーをする音

1131

1132 わしやわしやってしていくね♪

1133

1134 わしやわしや♪ わしやわしや♪ わしやわしやわしやわしや♪

1135

わしやわしやわしやわしや♪ わしやわしや♪ わしやわしや

1136

1137 (吐息・10秒)

1138

1139 女の子はシャンプーひとつとっても、時間をかけるものなんだ。

1140

さっきも言ったけど可愛いは努力の結晶だからね。

1141

1142 ■主人公：頑張る秘訣はなにかある？

1143

……頑張る秘訣って言われても、うん。好きな人に可愛く見られたいとか、じゃない？

1144

うん、一般論的にはね、私のことじゃないからね。たぶん。

1145

え、えへ。恥ずかしくなってきた。

1147

ご主人様と恋愛トークなんてしたことなかったね。

1148

1149 今のが恋愛トークに分類できるかは少し疑問だけど……。あはは。  
1150  
1151 お風呂にいるせいか、なんだか身体が熱くなってきちゃった。  
1152 ちよっと集中してシャンプーするね。  
1153  
1154 ■効果音:シャンプー音のみ(60秒くらい)  
1155  
1156 (シャンプーしてる吐息・10秒×2パターンください)※ループ用  
1157  
1158 そー言えば、痒い所ありますかって、美容室でよく聞かれるけど、  
1159 あれどう答えるのが正解なんだろうね。  
1160  
1161 たまーに痒いところあるんだけど、ロじや説明できないから、  
1162 いつも大丈夫ですって言っちゃうんだよね。  
1163  
1164 ■主人公:あるある  
1165  
1166 ……だよね。ご主人様も一緒でよかった。  
1167 もしかしたら雄弁に事細かに説明してるかもって構えちゃった。あはは。  
1168  
1169 ■効果音:シャンプー音のみ(60秒くらい)  
1170  
1171 ご主人様、痒い所はございませんか？なんて、えへへ。  
1172 やっぱ言いたくなっちゃうね。  
1173  
1174 ■効果音:シャンプー音のみ(30秒くらい)  
1175  
1176 やり過ぎもよくないからこのくらいにしとこっか？  
1177  
1178 ■主人公:うん  
1179  
1180 それじゃ流してくから、お目めつむって。  
1181 シャンプーが目に入ると凄く痛いからね、それはもうすごくすごく痛かった！  
1182  
1183 これはつい三日前の出来事だったよ。思い出しても目が染みる。  
1184 某三分間持ってくれる紳士さんの気持ちが少しわかった気がする。

1185 っと、無駄話してる場合じゃないね。

1186

1187 流すね。

1188

1189 ■効果音:シャワーで流す音 30秒ほど

1190 ■効果音:シャワーを横にする 横からシャワーの音が聴こえる感じですよ。

1191

1192 はい、終わり。どうかな？ 気持ちよかった？

1193 いつもより少しすっきりした感じしない？

1194

1195 ■主人公:言われてみれば

1196

1197 ふふ、良かったらこのシャンプーあげよっか？

1198 私と御揃いになるかもだけど……嫌じゃなかったら、ね。

1199

1200 ■主人公:も、もらっとく

1201 ▼演技指示:嬉しそうに

1202

1203 ……うん！ ストックたくさんあるから遠慮せず貰って。

1204 えへ、えへ。

1205

1206 そ、それじゃ次はトリートメントしていいっか。

1207 今日はご主人様に女の子の大変さを知ってもらおうから覚悟するようだよ。えへへ。

1208

1209 ■効果音:環境音フェードアウト

1210

1211	(■トラック7)
1212	
1213	■効果音:ノックする音
1214	▼位置:前【遠距離】※編集さんへ扉越しに加工
1215	
1216	《星七》
1217	ご主人様、入るよ〜。
1218	
1219	■効果音:ドアを開ける音
1220	■環境音:秒針の音
1221	▼位置:前【遠距離】
1222	
1223	お邪魔します。
1224	
1225	■効果音:ドアを閉める音
1226	■効果音:どうした
1227	
1228	う、うん。用というか。なんていうか……。えっとね――。
1229	
1230	■効果音:足音(主人公に近づく)
1231	▼位置:前【中距離】
1232	
1233	昔みたいにまた一緒にいたいなあって思ってたら、足が勝手に、ね。えへへ。
1234	もしかして迷惑だったかな？
1235	
1236	■主人公:そんなことないよ
1237	
1238	そ、そう？ それならよかった。えへへ。
1239	
1240	あ、一応メイドさんのお仕事もちゃんとするから。
1241	といつても、もうメイド服、脱いじゃったけどね、あははへ。
1242	
1243	あとは寝るだけだから、パジャマに着替えちゃった。
1244	
1245	■効果音:衣擦れ音
1246	

1247 新しく買ったんだけど、どお？

1248

1249 ■主人公：よく似合ってるよ

1250

1251 ……ご主人様的にはメイド服を着ての方が嬉しかったかな？

1252

1253 ■主人公：そんなことない！

1254

1255 ……わっ、そんなに否定しなくても、びっくりしたあ。

1256

1257 ▼演技指示：小声

1258

1259 これは相当こじらしてるね。パンドラの箱だったかも？

1260

開けてはならない箱がこの世にはあるんだね。

1261

1262 ■主人公：なんだって？

1263

1264 え、あっ、ううんなんでもないよ、

1265

耳かきしてあげようかなって言っただけ。

1266

1267 ■主人公：耳かき？

1268

1269 そう耳かき、メイドさんらしいでしょ？ どうかかな？

1270

1271 ■主人公：お願いしますよ

1272

1273 ……う、うん。任せて。

1274

1275 そしたらズツドでしよっか？

1276

床でもいいけど、せっかくならふかふかなお布団の方が気持ちよくできると思うんだ。

1277

1278 ■主人公：いいよ

1279

1280 ■効果音：足音（星七）

1281

1282 <<< やった♪ 失礼します。

1283 ■効果音：星七がベッドに座る音  
1284 ■効果音：ベッドが軋む音  
1285 わあ、ふかふか。ぴよんぴよんしたくなっちゃうね。  
1286  
1287 ■主人公：してもいいよ  
1288  
1289 ……し、しないよ？ 私もう高校生だもん、そんな子供っぽいこと……。  
1290  
1291 ■主人公：はは  
1292  
1293 ……からかわないでよろもう。  
1294  
1295 そんな意地悪言うご主人様には、耳かきしてあげないよ？  
1296 もう、まったくもうだよ！  
1297  
1298 ■主人公：ごめんごめん  
1299  
1300 ……次はないからね。もう。  
1301  
1302 それじゃ耳かきしてあげるから、頭、私の膝に置いて。  
1303  
1304 うん、膝枕してあげる。  
1305 さつき君が、じゃなくてご主人様がしてくれたみたいに、ね。  
1306 お返し。そしてまた膝枕をしてみらうんだ。さ、来て。  
1307  
1308 ■効果音：膝枕をする音  
1309 ▼位置：前【近距離】  
1310  
1311 ……あつ、ふふ。いいんだよ、頭を預けても。  
1312 ちょっと力入れて頭、浮かせてるでしょ？ 優しいんだね。  
1313  
1314 でも、それじゃ集中して耳かきできないから――。  
1315  
1316 ■主人公：じゃ、遠慮なく  
1317  
1318 ……うん、私に預けて。

1319	
1320	■効果音:膝枕をする音
1321	あと、ね。えっと、えへへ。顔をこっちに向けられちゃ、耳かきできないよ？
1322	
1323	■効果音:膝枕する音(慌てて)
1324	▼位置:左耳【近距離】
1325	
1326	ひゃあ、急に動くとかすぐつたいよ。
1327	
1328	あわてんぼうのご主人様だ♪あと照れ屋さんでもあるね。えへへ。
1329	耳まで真っ赤になってる。可愛い。
1330	
1331	■主人公:からかわないですよ
1332	
1333	ごめんごめん、可愛くてついからかっちゃった♪ふふ、さっきの仕返しだよ♪
1334	お詫びとして、ちゃんと耳かきしてあげるから許して。ふふ
1335	
1336	■効果音:ポケットから耳かき棒を取り出す
1337	
1338	えっと、耳かき棒、耳かき棒っと。あった、あった。
1339	
1340	▼演技指示:以降、耳かき中は囁き
1341	
1342	よおし、耳かきやっていくね。まずは耳の外側から
1343	
1344	■効果音:耳かき外側 開始
1345	
1346	(吐息・10秒)
1347	
1348	外側はちよっとだけ力を入れて、擦るようにするのがポイントなんだって。
1349	
1350	溝をなぞるように耳かき棒をあてて……。
1351	
1352	かりかり、かり、かり。かりかり。かりかりかりかり。
1353	かり、かり、かり、かりかりかり。かり、かり、かり、かりかり。
1354	

1355 (吐息・10秒)

1356 なんだか迷路をなぞってるみたい。

1357 覚えてる？ 昔、主人様と一緒に迷路解いたよね。

1359

1360 うん、あの雑誌のおまけ。

1361 出口が全然わからなくて、同じ場所を鉛筆ですつとなぞっていた時を思い出すね。  
1362 今それをご主人様の耳で同じことをしてる。

1363

1364 えへへ、おかしな感じ♪

1365

1366 (吐息・10秒)

1367

1368 かりかり、かり、かりかり。かり、かり。かりかりかり。

1369 かり、かり、かり、かり。かりかりかり。かり、かり、かりかり。

1370

1371 (吐息・10秒)

1372

1373 静かだね。お昼は私が慌ただしく動いていたから、掃除機の音とか、  
1374 洗濯機の音とか、お料理する音とかで少しうるさかったかも。  
1375

1376 ■主人公：そんなことないよ

1377

1378 ホント？ そう言ってくれると助かるなあ。

1379 えへへ、優しいご主人様でよかったよお。

1380

1381 (吐息・10秒)

1382

1383 こんなに静かでゆったりとした時間を過ごせるなんて、  
1384 子供のころもあまりなかったよね？  
1385

1386

1387 二人とも大人になったのかなあ。なんてね。ふふ

1388

1389 (吐息・10秒)

1390

■編集さんへ：今までの吐息を使って耳かき音 60秒

1391  
1392 はい、外側はこのくらいにしとこっか？なぞるの楽しかった♪  
1393  
1394 次は奥の方をしていくね。  
1395  
1396 ここからが本番、ゆったり力を抜いてリラックス、リラックス♪  
1397  
1398 入れてくよ。  
1399

■効果音:耳かき音 奥側

1400  
1401  
1402 (吐息・10秒)  
1403  
1404 痛かったらすぐに言って。外側と違って耳の奥はとても繊細だから。  
1405 ご主人様を傷つけたくないから、ね。  
1406

(吐息・10秒)

1407  
1408  
1409 かりかり、かりかり。かりかり。かりかりかりかり。  
1410 かり、かり、かり、かり、かりかり。かり、かりかり、かりかりかり。  
1411  
1412 どう、かな？ 大丈夫？ 痛くない？  
1413  
1414

■主人公:気持ちいいよ

1415  
1416 ……よかった、気持ちいいんだ。ご主人様に喜んでもらえるなら、  
1417 メイドさんやってよかった、かも？ えへへ。  
1418  
1419 もうメイド服きてないけどね、あはは。  
1420  
1421 あっ、少し残念そうな気配が……。もう、ご主人様ったら。ふふふ  
1422  
1423 (吐息・10秒)  
1424  
1425

1426 なんだか不思議だね。  
久しぶり入ったご主人様の部屋で膝枕して、耳かきしてるの。

1427  
1428 ついこの間まで想像もつかなかった。  
1429 ちょっと距離空いてたもんね、最近。  
1430

1431 (吐息・10秒)  
1432

1433 でも、この空気感は昔から変わらない。  
1434 温かい日差しのようなポカポカ感。昔とおんなじ。  
1435

1436 年を重ねて、身体が成長して、人間関係もちょっとちぐはぐになって。  
1437 周りもご主人様も、私も変わったはずなのに、こーして二人きりしていると、  
1438 昔と同じ空気が流れてる、ね。  
1439

1440 それがね、幸せだなくって思うんだあ。  
1441 この心地いい幸せををずっと抱きしめていたい。  
1442 なんてね。えへへ。  
1443

1444 (吐息・20秒)  
1445

1446 そーいえば、アイラちゃんからメイドさんのこと聞いたんだよね？  
1447 ご主人様、アイラちゃんと仲いいよね？  
1448

1449 ■主人公：まあな  
1450

1451 ふん、別にいいんだけど、  
1452 あまりほかの女の人の話にほいほい乗せられちゃダメだから、ね。  
1453

1454 アイラちゃん可愛いから、ご主人様が鼻の下を伸ばすのもわかるけど、  
1455 あまりほかの人のこと見ちゃ、嫌だよ。  
1456

1457 ご主人様は、メイドさんのご主人様なんだから、  
1458 ちゃんとメイドさんだけを見てほしいの。  
1459

1460 わかった？  
1461

1462 ■主人公：うん。

1463  
1464  
1465 約束だよ？

1466 ■主人公：はい

1467  
1468 わかればーよ。ふふ♪

1469  
1470 (吐息・10秒)

1471

1472 かりかりかり、かりかり。かりかり。かりかり。かり、かり。

1473 かり、かりかり、かり、かり、かりかり。かり、かりかり、かりかりかり。

1474

1475 (吐息・10秒)

1476

1477 ■編集さんへ：今までの吐息を使った60秒ほど耳かき音

1478

1479 うん、こつちのお耳はこのくらいいいかな？

1480 普段から掃除してるからかな？あまり耳かきする必要なかったね。

1481

1482 ▼演技指示：次の台詞 悪戯気に

1483

1484 ……えく。

1485

1486 反対のお耳をお掃除する前に――。

1487

1488 ▼演技指示：耳に息を吹きかける

1489

1490 ふら～～～～。

1491

1492 びっくりした？サプライズだよ♪

1493

1494 ■効果音：びっくりした

1495

1496 じゅんねん、くく。

1497

1498 気を取り直して反対側もやろっか

1499  
1500 反対側向いて、ごろんってできる？  
1501

1502 ■効果音:ゴロンする音

1503 ▼位置:右耳【近距離】

1504  
1505 はい、よくできました♪

1506 ………。

1507 ………♪ご主人様のお顔が私のお腹に……。

1508

1509 えっと、……あ、あまりお腹見ないでね。

1510 目つむってて。お風呂の時見たいにぎゅってして。

1511

1512 うう、なんだか急に恥ずかしくなってきたよお。

1513

1514 ▼演技指示:独り言

1515

1516 頑張れ私、最後までメイドさんになりきれ〜。

1517 メイド服ないと余計に恥ずかしい〜。

1518 ああ、まさかメイド服が恋しくなるなんて思わなかったよお。

1519

1520 こほん、そ、それじゃさつきと同じように、外側から懇切丁寧に頑張っていくよ。  
1521  
1522 メイドさん頑張る。

1523

1524 ■効果音:耳かき 左耳 外側 開始

1525

1526 (吐息・10秒)

1527

1528 かりかり、かり、かり。かりかり。かりかりかりかり。

1529

1530 かり、かり、かり、かりかりかり。かり、かり、かり、かりかり。

1531

1531 (吐息・10秒)

1532

1533 明日になれば、メイドさんはおしまい。

1534

これまで通りの幼馴染で同級生の関係に戻っちゃうね。

1535  
1536 (吐息・10秒)  
1537

1538 メイドさんをやめても、またこーして君の部屋で一緒にいても、いいかな？  
1539

1540 ■主人公：いいよ  
1541

1542 ……ありがとう。  
1543

1544 (吐息・10秒)  
1545

1546 かり、かり、かり、かり。かりかり。かりかりかりかり。  
1547 かりかり、かり、かり、かりかりかり。かり、かり、かりかり、かり。  
1548

1549 (吐息・10秒)  
1550

1551 お部屋、綺麗になったね。  
1552

1553 ■主人公：そうだね  
1554

1555 最近、お部屋のコーディネートとか調べるのはまってるんだ。  
1556 今日はその経験を活かしてみたんだけどどうかな？  
1557

1558 ■主人公：自分の部屋じゃないみたい  
1559

1560 ……自分の部屋じゃないみたいって、  
1561 ふふ、それはちよつと言い過ぎじゃないかな？  
1562

1563 もしくはちよつとほめ過ぎだよ、私を甘やかしてもメイドさんくらいにしかなれないよ？  
1564

1565 ■主人公：願ったり叶ったり  
1566

1567 ……ほおら、鼻息荒くしないの、もう、まったくもうだよ。  
1568

1569 (吐息・15秒)  
1570

1571 変わらない関係も素敵だけど、今日みたいに私がメイドさんになって、  
1572 君がご主人様になって変化するのも楽しいね。  
1573

1574 ご主人様が——君が君でいてくれて、私が私のままだったら、  
1575 周りの関係や環境が変わっても、ずっと私たちは私たちのままだと思わない？  
1576  
1577 君もそう思ってくれたら嬉しいな。  
1578

1579 (吐息・20秒)

1580 ■編集さんへ：今までの吐息を使った耳かき音 60秒

1581

1582 はい、外側終わり。

1583 ん？ ふふ、ご主人様、眠そう。

1584 いいよ、寝ても。終わったら起こしてあげるから。

1585

1586 ■主人公：それは悪いよ

1587

1588 ……そんなことないよ。それに少し嬉しい、安心して、信用してくれるから、  
1589 眠たくなってきてるんだよね？  
1590

1591 人に信頼されるって、嬉しいモノなんだよ。えへへ。  
1592 特にご主人様には、ね。  
1593

1594 ■主人公：それじゃお言葉に甘えて

1595

1596 うん、私も優しく耳かきしていくから。

1597 奥の方やってくね。

1598

1599 ■効果音：耳かき 左耳 奥側 開始

1600

1601 (吐息・20秒)

1602

1603 ■効果音：しばらく 耳かき音 90秒くらい

1604

▼演技指示：次の台詞 今までより小声でお願いします。

1605

1606 ぐしゅじんさま。起きてますかあ。もう寝てる。

1607  
1608 ふふ、気持ちよさそうに眠ってるね。可愛い。  
1609

1610 (吐息・10秒)  
1611

1612 今日、メイドさんの恰好で来た時は、すごく顔真っ赤にして、  
1613 フリーズするくらい緊張していたのに、今はこんなにリラックスして寝てるんだもん。  
1614 繊細なのか、大胆なのかわからなくなっちゃうよお。  
1615

1616 (吐息・10秒)  
1617

1618 ご主人様、ちゃんと、寝てるよね？ 大丈夫だよね。  
1619

1620 (吐息・20秒)  
1621

1622 小さい頃のお話。——私は恋をしたの。  
1623

1624 えへへ、今思えばそれを恋と呼ぶには早すぎたかもね。  
1625

1626 でもね、小さな恋心は確実に私の心に芽生えた。  
1627

1628 一緒にいて、楽しい。優しい幼馴染さんに恋をした。  
1629

1629 (吐息・10秒)  
1630

1631 年を重ねるごとに、恋の種は芽吹いて、大きくなった。  
1632

1632 中学生になる頃には、恋の蕾が開花して綺麗な花になった。  
1633

1634 (吐息・10秒)  
1635

1636 きっかけはなんだっただろうね。昔のこと過ぎてもう覚えていないや。  
1637 当たり前のようにいた君を好きになった。いつも傍にいる君に恋をした。  
1638

1639 私に優しくしてくれたから？ 一緒にいるのが楽しかったから？  
1640

1640 君がカッコよかったから？ 君が可愛かったから？  
1641

1642 (吐息・10秒)



1679 ■効果音:主人公が起きる音 衣擦れ音  
1680  
1681 あはっ、起きた？  
1682  
1683 ■主人公:びっくりした  
1684  
1685 ぐっすり寝てるから悪戯しなくなっちゃった♪  
1686  
1687 ■効果音:起き上がろうとする音  
1688  
1689 あ、まだ起き上がらないで。  
1690  
1691 もう一回やっただげる。  
1692  
1693 ふぅ~~~~~  
1694  
1695 おまけでもう一回♪  
1696  
1697 ふぅ~~~~~  
1698  
1699 はい、おしまい♪  
1700  
1701 えへへ、サプライズだよ？  
1702  
1703 さ、起き上がっていいよ。  
1704  
1705 もう夜も深い時間になったから、今日は寝ちやお？  
1706  
1707 うん、このままベッドに入って。  
1708  
1709 また明日、起こしてあげるからね。  
1710

1711 (■トラック 8)

1712

1713 ■環境音:時計の秒針の音

1714 ▼位置:前【遠距離】

1715

1716 電気消すね。

1717

1718 ■効果音:電気を消す音

1719 ■効果音:お布団でもぞもぞする音 主人公

1720 ■効果音:近づく足音(星七)

1721 ▼演技指示:以降小声

1722 ▼位置:前【近距離】

1723

1724 あはは、お邪魔します。

1725

1726 ■効果音:布団もぞもぞ音

1727

1728 えっと、なんでこうなったのかな？そ、添い寝なんて恥ずかしいよお。

1729

1730 ■主人公:アイラから添い寝サービスもあるって

1731

1732 アイラちゃんから？た、確かに添い寝サービスもあるって話だけど……。

1733

1734 ▼演技指示:小声で

1735

1736 アイラちゃん、お節介焼きすぎだよお。

1737

1738 ん？ああうん、なんでもない。

1739 あるよ添い寝サービス。メイドさんのお仕事だもん。

1740 そうメイドさんのお仕事だからね。

1741

1742 うう、でもまさかご主人様から言われるとは思わなかったよお。

1743 自分から言うんだったらまた心の準備ができたけど、急だとびっくりしちゃう。

1744

1745 ご主人様は大きなあくびしてるし、こっちの気も知らないでもう、まったくもうだよ！

1746 ■主人公:いじけるなよ

1747  
1748 別にいじけてないもん。ちょっとデリカシーのないご主人様に、辟易してるだけでもうん。  
1749  
1750 私一人だけドキドキするなんてずるいよお。  
1751  
1752 ■主人公：俺もドキドキしてる  
1753  
1754 ……？ご主人様も？ ホントに？  
1755  
1756 触ってみても、いい？  
1757  
1758 ■主人公：いいよ  
1759 ■効果音：主人公の心臓部分に手を伸ばす音（衣擦れ音）  
1760  
1761 …あ。ホントだ、心臓の音、凄く早い、ね。私と同じくらい。  
1762  
1763 なんでこんななのに、あくびなんてするかな。  
1764 もう、まったくもうだよ。  
1765  
1766 （吐息・15秒）  
1767  
1768 ▼演技指示：匂いを嗅ぐ  
1769  
1770 すんすん、すんすん。  
1771  
1772 えへへ、ご主人様、私と同じ匂いがするね。  
1773  
1774 同じシャンプーにトリートメント、ボディークリームにあと、  
1775 洗剤というか柔軟剤も実はお家からもってきたやつを使ったから、一緒の匂いがする。  
1776  
1777 すぐ近くにご主人様がいて、ドキドキしてるはずなのに、なんだか安心する。  
1778 ふふ、変な感じ♪。  
1779  
1780 でも、すんすん、すんすん。  
1781  
1782 ちょっと違うね。少しだけご主人様——君の匂いがする。

1783  
1784 嗅ぎなれた、落ち着く匂いが混じってる、ね。えへ。  
1785

1786 ■主人公：星七、匂い嗅ぐの好きだよな。  
1787

1788 ……ええ、そ、そんなことないよ？ 私、匂いフェチじゃない、よ？  
1789

1790 た、確かにちよっと、いい匂いは好きだけど、匂い嗅ぐのが好きってわけじゃないから。  
1791

1792 うん、そう、だよ？  
1793

1794 ■主人公：怪しい  
1795

1796 あ、怪しくないもん。ホントだもん。まったく、まったくもうだよ。  
1797

1798 ■効果音：布団もぞもぞ音  
1799

1800 (吐息・15秒)  
1801

1802 一緒に寝るのも久しぶりだね。  
1803

1804 小さいころ、遊び疲れて公園で寝たり、  
1805

1806 ご主人様の家でご飯をご馳走になった時も、  
1807

1807 二人そろってお箸を持ったまま寝ちゃったり、  
1808

1808 夜は一緒に寝よって約束したのに、ご主人様が先に寝ちゃったり。  
1809

1809 そんな当たり前がいつからかなくなって、少しずつ君との距離が離れていくようだった。  
1810

1811 君は男の子の皆と遊ぶことが増えて、私は女の子と一緒にすることが多くなった。  
1812

1812 最初はあまり気にしてなかったけど、気づいた時には、  
1813

1813 どう君に話しかけていいかわからなくなっちゃった。  
1814

1815 君との仲が悪くなったわけじゃない、何も変わってないはずなのに、  
1816

1816 何もかも変わってしまったようで、怖かった。  
1817

1817  
1818 会えば挨拶はするし、学校でもお話しする。たまに一緒に帰ったりはするけど、

1819 二人で一緒に遊ぶことはなくなった。

1820

1821 毎日一緒に過ごしていた過去の思い出が塗り替えられていくようで、不安だった。

1822

1823 このまま高校を卒業して、大学を出て、社会人になったら、

1824 君が私の傍からいなくなっちゃうかもって考えると、ね。

1825

1826 うん、怖くて不安で辛かったんだあ。

1827

1828 だから今日こーして、二人でずっと過ごせて、あの頃と変わってしまったけど、

1829

1830 変わらない想いがあることに気づけた。

1831

1832 安心した。

1833

1834 二人でいるだけで、私は安心するんだ。

1835

1836 君はどうかな？

1837

(吐息・10秒)

1838

1839 寝ちゃってる。もう、せっかくいとお話をしていたのにい。

1840

▼演技指示：優しく囁きかけるように

1841

1842 もう、まったくもうだよ。

1843

(吐息・20秒)

1846

1847 君はもう、あの約束覚えていないのかな？

1848

1849 小さいころに交わした小さな約束。

1850

1851 私はずっと待ってるよ。君がいくつになっても、君から言ってくるのをずっと。

1852

1853 君からの言葉を待つことが、いつからか私の夢になっていた。

1854

夢を叶えるために、メイドさんになった。

1855 君との距離を縮めたくて、今日ずっと一緒にいた。

1856

1857 君が、好きだから。君からの告白を聴きたくて、今、傍にいるん、だよ？

1858

1859 わかっているのかな、ご主人様。なんてね。

1860

1861 (吐息・10秒)

1862

1863 ふああ。うん、私も眠くなって、きちゃった。

1864

1865 慣れないことばかりで、疲れちゃったのかな。

1866

1867 ▼演技指示:眠そうに

1868

1869 でも、楽しかったあ。

1870

1871 君の傍にいられて、君が傍にいてくれて。

1872

1873 すごく、すごく、楽しかった。

1874

1875 これから、も。ずっと……一緒、だよ……。

1876

1877 また、明日。おやすみ、なさい——。

1878

1879 ■編集さんへ:吐息を30秒くらい流して寝息に移行

1880

1881 (寝息・10秒×3パターンください)

1882

1883 ■編集さんへ:90秒ほど寝息を流してフェードアウト

1884

( ■トラック 9 )

- 1885  
1886  
1887  
1888  
1889  
1890  
1891  
1892  
1893  
1894  
1895  
1896  
1897  
1898  
1899  
1900  
1901  
1902  
1903  
1904  
1905  
1906  
1907  
1908  
1909  
1910  
1911  
1912  
1913  
1914  
1915  
1916  
1917  
1918  
1919  
1920
- 効果音：布団もぞもぞ音
  - ▼ 位置：前【遠距離】
  - 主人公：星七？
  - ▼ 演技指示：寝ぼけながら

《星七》

……んんん、お母さん？ まだ眠いから……ほっといてえ。んんん。

- 主人公：星七、朝だぞ。
- 効果音：布団を揺らす音

んんん、いやあ〜んん、まだ寝てる〜んん。  
地球が一回転したくらいには起きるから〜ん。

- 主人公：星七！
- 効果音：ベッドを強くゆする。
- 効果音：飛び上がる音
- ▼ 位置：前【中距離】

……ふあ〜い！……ええ？

- 主人公：おはよう

ええ？ ああ？ おはよう、いいます？

- ▼ 演技指示：状況整理する吐息

……。  
……。  
……。  
……えっ！？

あ、あああああつ、んん、ごめんね。自分のお家にいるもんだと、寝ぼけちゃった。

1921 あわ、あわわ。えっと、その、着替えるから、一回出て行ってほしいな！な！

1922

1923 ■効果音：主人公が部屋を出ていく足音

1924 ■効果音：扉の開閉音

1925 ■編集さんへ：扉越しで遠くに聴こえるように加工

1926

1927 あああああ、失敗したあ、油断したあ！

1928 恥ずかしいいいいいい。

1929

1930 ▼演技指示：恥ずかしがる奇声（可愛く）

1931

1932 きゅ~~~~~~~~。

1933

1934 ■編集さんへ：場面転換

1935 ■効果音：星七が靴を履く音

1936 ■効果音：靴先をトントンする音

1937 ▼位置：前【中距離】

1938

1939 よしっと、それじゃ私は帰るね。

1940

1941 あと、えとえと、さっきはごめんね。

1942

1943 ちょっとなれない事したせいか、ぐっすり寝ちゃった。

1944 なかなかのお寝坊さんだったね、メイドさん失格だよお。

1945

1946 ■主人公：気にしてないよ

1947

1948 ……そう言って貰えると助かるよお。

1949

1950 ふふ、そーいえば、昔から先に寝るのはいつも君で、後から起きるのはいつも私だった。

1951 変わらないものだねえ。ふふ、変なの。

1952

1953 ■主人公：そうだな

1954

1955 ……うん、変わらない。きっと君との関係性が変わっても、

1956 私たち二人なら今まで通り楽しく過ごせるね。

- 1957 そう思えた一日だった。
- 1958
- 1959 ん、今日はまだ休みだけど、明日から学校だね。
- 1960 宿題ちゃんとやった？ 大丈夫？
- 1961
- 1962 ■主人公：今日するよ
- 1963
- 1964 ……泣き付いても、答え見せてあげないからね、もう。
- 1965
- 1966 アイラちゃんに泣きつくのももっとダメだからね。
- 1967 他の女の人に甘えるのは禁止。
- 1968
- 1969 ■主人公：アイラには泣き付かれることの方が多い
- 1970
- 1971 ふふ、確かに。アイラちゃん頭いいのに、ものぐさだからね。
- 1972 アイラちゃんを甘やかすのも禁止ね。
- 1973
- 1974 ■主人公：わかった
- 1975
- 1976 それと、もし君が、どうしようもないって思ったなら、
- 1977 その時にはちょっとだけ手伝ってあげなくもないから。
- 1978
- 1979 ■主人公：その時は頼む
- 1980
- 1981 ……頑張つて。応援してるから。
- 1982 もし頑張れたら、またメイドさんとして、来てあげてもいい、よ？
- 1983 なんてね♪
- 1984
- 1985 それじゃまた学校で。またね、ご主人様♪
- 1986
- 1987 ■主人公：からかうなよ
- 1988
- 1989 ……えくく。
- 1990
- 1991 ■効果音：扉をあける音
- 1992 ■効果音：扉を出る足音

1993	■ 効果音:扉を閉める音
1994	■ 編集さんへ:2秒くらい間
1995	■ 効果音:扉をそっと開ける音
1996	
1997	あ、あと。最後にこれだけは言っときたいんだけど……。
1998	
1999	■ 主人公:なに？
2000	
2001	すうすうはあうう。
2002	
2003	▼ 演技指示:照れながら
2004	
2005	き、君からの告白、私ずっと待ってるからね。
2006	
2007	■ 主人公:え？
2008	
2009	ばいばいっ！
2010	
2011	■ 効果音:扉が閉まる音
2012	■ 効果音:扉越しに走り去る音
2013	

2014 (■トラック 10)

2015

2016 ※通常マイクで収録予定※

2017

2018 ‹‹星七››

2019 アイラちゃん、お待たせ〜。

2020

2021 ‹‹アイラ››

2022 あ〜こっちこっち。

2023

2024 ■効果音:足音

2025

2026 ‹‹星七››

2027 どうしたの、こんなところに呼び出して？

2028 はっ、まさか告白！？ ダメだよお、私好きな人いるもん。

2029

2030 ‹‹アイラ››

2031 あ〜それは知ってる。知り過ぎてる。あたしがどれだけ星七からアイツのこと聞いてるか、  
2032 もうフルネーム、電話番号、住所も知ってるよ。

2033

2034 ‹‹星七››

2035 え？ アイラちゃんもしかして、ストーカー？

2036

2037 ‹‹アイラ››

2038 ちげえよ！ 星七が勝手に。べらべら個人情報流出させてんの！

2039

2040 ‹‹星七››

2041 あらまあ、そんな不思議なことが……。

2042

2043 ‹‹アイラ››

2044 ……。よし、アイラ、落ち着け深呼吸だ、深呼吸。

2045 星七のペースに乗せられたら負けだ。

2046 すう〜はあ〜すう〜はあ〜。

2047

2048 ‹‹星七››

2049 アイラちゃん、楽しそうだね。



2086 †アイラ†  
2087 ちょい耳かして。  
2088  
2089 †星七†  
2090 うん？  
2091  
2092 ■二人同時  
2093 †アイラ†  
2094 こしよ(こしよ)こしよ。  
2095  
2096 †星七†  
2097 ふん、ふん……。  
2098 ■二人同時(こ)まで  
2099  
2100 †星七†  
2101 えっ~~~~~~~~!!  
2102  
2103 †アイラ†  
2104 声デカいって。あいつに見つかったらどうすんだよ。  
2105  
2106 †星七†  
2107 でもお。メイドさんになりきって、ご奉仕するなんて、  
2108 なんだか不健全だよお。  
2109  
2110 †アイラ†  
2111 我儘いわない！ 星七言ってただろ、最近距離感じるって。  
2112 それはたぶん向(こ)も同じことを想ってるはずだ。  
2113  
2114 こ(こ)で一気に距離を縮めて、今以上に意識してもらえ。  
2115 そしたらいくらヘタレのアイツでも告白くらいするだろ。  
2116  
2117 †星七†  
2118 彼の悪口はメっだよ！  
2119  
2120 †アイラ†  
2121 あゝ悪い悪い。

2122 ▼演技指示：小声で  
2123

2124 ≪アイラ≫

2125 あいつのことになると怖いんだから星七は。

2126

2127 ≪星七≫

2128 何かいった？ アイラちゃん。

2129

2130 ≪アイラ≫

2131 え、いや、なにも言ってないよ？ ホントだよ？

2132

2133 ≪星七≫

2134 ふっふん。

2135

2136 ▼演技指示：小声で  
2137

2138 ≪アイラ≫

2139 星七、目が笑ってない。怖い怖い怖い。

2140

2141 ≪星七≫

2142 それで、メイドさんになればいいってこと？

2143 私も、高校卒業する前には告白してほしいなあって思ってるから、

2144 ちよっとは頑張れるけど……。でもどうやって？

2145

2146 ≪アイラ≫

2147 そこはあたしに任せろ！

2148 適当に嘘こいて、偽サイトのメイド出張サービスに申し込んだふりをしてやる。

2149 あたし嘘に自信があるんだ！

2150

2151 ≪星七≫

2152 褒められた特技じゃないね。

2153

2154 ≪アイラ≫

2155 うるせえ。

2156 まあ大船に乗ったつもりでいな。あたしがきちんとやってやるから。

2157

2158	《星七》
2159	アイラちゃんがそこまでいうなら、お願いしてみようかな。
2160	
2161	《アイラ》
2162	よしきた！
2163	
2164	▼演技指示：小声で
2165	
2166	《アイラ》
2167	これで、じれったい雰囲気と、面倒な悩み事から解放されるう！
2168	
2169	《星七》
2170	アイラちゃん、聞こえてるよ。
2171	
2172	《アイラ》
2173	うえー！
2174	
2175	《星七》
2176	ちょっと向こうでお話しようか？
2177	
2178	《アイラ》
2179	あ、いや——
2180	
2181	■効果音：チャイム音
2182	
2183	《アイラ》
2184	あっ、ほら、チャイムなったぞ。
2185	早く教室いかなきゃ！
2186	
2187	■効果音：走り去る音
2188	
2189	《星七》
2190	あっ、アイラちゃん！
2191	もう、まったくもうだよ！
2192	
2193	■編集さんへ：少し間

